

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和6年度)

施 設 の 名 称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指 定 管 理 者 の 名 称	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
施 設 所 管 部 課 (室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成18年4月 ～ 平成21年3月	指定管理	(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成21年4月 ～ 平成26年3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成26年4月 ～ 平成31年3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成31年4月 ～ 令和 6年3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	

※ 管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
	所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2
指 定 期 間	平成31年4月1日 ～ 令和6年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	☐ 公募 ☒ 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	
所 在 地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2	
設 置 年 月	平成 3年 1月	
根 拠 条 例 等	サンクチュアリセンター条例	
設 置 目 的	伊豆沼・内沼を調査・研究し保全対策を確立し、人間と野生動植物とが共存する優れた自然環境としてのサンクチュアリ(聖域)を創造するとともに県民の自然保護思想の高揚と自然と調和した活力ある地域づくりを推進するため設置されました。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	3,850 m ²
	構 造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
	内 容	1階 829.87m ² (事務室、資料室、実験室、研修室、ボランティアルーム) 2階 563.62m ² (会議室、展示室、軽食喫茶室、観察展望室)
開 館 (所) 日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(日曜日、土曜日、1月2日を除く。)を除く日 ◇ 12月29日から12月31日を除く日	
開 館 (所) 時 間	午前9時00分 ～ 午後4時30分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター管理業務 ①建物等の管理②物品の使用及び管理③施設の共用④入館の拒否等⑤損傷等の届け出⑥展示物等の管理、保全及び維持管理⑦事故防止と発生時の処理⑧再委託業務の管理⑨施設の管理運営に関する環境配慮⑩事業報告 2 伊豆沼・内沼周辺地域維持管理及び整備業務 ①水生植物園の維持管理及び整備②買上地(県有地)の維持管理及び整備③ハス田の維持管理④観察路の維持管理及び整備	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	☐ 有 ☒ 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
開館(所)日数	300 日	306 日	304 日	101.3%	99.3%
延べ利用者数	30,000 人	33,967 人	36,161 人	120.5%	106.5%

※ 対象施設が複数ある場合は施設ごとに記入

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
	30,000 人	33,967 人	36,161 人	120.5%	106.5%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	30,000 人	33,967 人	36,161 人	120.5%	106.5%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円、%)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
県指定管理料	32,906	31,738	32,906	100.0%	103.7%
利用料金収入					
その他					
収 入 計 (a)	32,906	31,738	32,906	100.0%	103.7%

(2) 支出

人件費	19,322	18,940	19,407	100.4%	102.5%
施設管理費	13,084	11,976	13,735	105.0%	114.7%
事業運営費					
その他					
支 出 計 (b)	32,406	30,916	33,142	102.3%	107.2%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	500	822	-236	-47.2%	-28.7%
前期繰越収支差額					
次期繰越収支差額					

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲

6. 評価対象年度(令和6年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

主な視点	項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
					評価		評価
経済性	施設・設備の維持管理業務の実施	1 日常的に施設及び設備関係、展示品の見回り点検を行い、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。 2 施設管理に関する法令を遵守し、清掃業務・消防設備保守点検・空調設備保守点検・重油タンク清掃業務・貯水槽清掃業務・エレベーター保守点検・機械警備業務については、指名競争入札により委託業者を選定し、適切な管理の下、経費節減に努めた。		法令を遵守し定められた点検・検査を行うとともに、職員が常時、建物内及び敷地内を巡回し、盗難、汚損及びゴミの不法投棄等の防止を行った。		A	法令に従い管理施設の保守点検がなされている。また、管内の展示物や設備機器についても適正に管理されており、管内の清掃も行き届いている。 施設の異常などが見られた際は速やかに連絡を行っており、連携が取れている。
	収支実績	上記「5. 管理運営収支実績」のとおり。		経費削減を実施し、粗餐の範囲内での執行を行った。		A	限られた予算の中で、各事業が適正に執行されている。また、協賛企業からの支援を有効に活用し事業に取り組んでいる。
効率性	管理運営体制	指定管理者として、「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用を図るとともに、破損箇所等の早期発見と保守に努め、経費節減等も図りながら、適切に保全・管理した。		運営に関しては、少ない人数で総合的施策の推進と教育的効果の向上を図りながら、施設備品の適切な管理と利用入館者への接客サービスに意を用い、自然保護・動物愛護思想普及に相乗的効果があがるよう運営管理を行った。		A	施設管理及び各種事業等に職員が鋭意取り組んでおり、適正な管理運営がなされている。
	人員体制	正規	4 人	非正規	5 人		
	運営業務(ソフト事業等)の実施	別記1のとおり		各研究員が研究内容をシンポジウム及び学会で発表している事により、沼の保全対策は、全国から注目されている。		S	各研究員が、伊豆沼、内沼に生息・生育する鳥類、魚類、水生植物等に関する研究を鋭意行っており、学会等においてその成果を発表するなど積極的に情報発信をしている。特にこうした研究成果を基とした沼の保全対策は全国からも高い評価を受けている。
有効性	利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり		上半期の入館者数は、4月から9月まで昨年度を上回った。特に8月は昨年7月の増水でハスが十分でなかったため、昨年度より85人増にとどまり上半期全体では昨年度より1,301人の増加となった。 また、下半期は2月、3月に若干減少したものの全体的に増加となり、年間で2,194人増の昨年入館者数の106%となった。		A	入館者が昨年度と比較して2,194人増加、開館日数304日、1日の平均入館者数が約119人は、評価が高い。
	利用者サービスの向上	入館者のニーズに応えるべく、館内にフリーWiFiを設置、パンフレットを独自で作成し配布を行い好評を得ている。情報の発信は、ホームページ、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュースの毎月発行、さらにはマスコミ等を通じ、水鳥やブラックバス等の情報をはじめ調査・研究等を積極的に情報発信している。 研修室は、管理運営に支障のない限り伊豆沼・内沼関連の各種会合等に開放し、有効活用を図った。		地元はもとより県内、県外、海外からの多くの方々が来館する。職員が、積極的に来館者への対応を行っており、ニーズを的確に把握しながら、サービスの向上に努めている。		A	インターネットのホームページを活用し、情報が提供されている。また、独自でセンターニュースを毎月発行しているほか、観光客の利便に供するため、観光地図等を取りそろえ提供するなど来客者のニーズに的確に対応している。
	利用者の苦情、要望等の把握とその反映	館内に設置する「ご意見カード」の意見の内容を分析し、誠実に対応した。接遇にも十分留意しながら対応し、トラブルの未然防止に努めた。施設利用者の利便性と入館者増加に向け、館内展示物の配置を工夫するなど、観葉植物、花鉢を設置し、うろおいのある空間づくりに努めた。		来館者からの意見を参考に、展示物に予算をかけられないため、職員が展示物やパネル等を作成し、沼の四季にあわせた館内展示を工夫している。		A	来館者の意見を大切にし、伊豆沼・内沼の自然の紹介や、研究成果を分かりやすく展示するなど運営に活かしている。
その他	県民の平等利用	センターの利用及び各種自主事業への参加については、県内、県外を問わず公平平等とし、誰にでも気軽に利用できる様にした。また、調査・研究の成果については、一般にも広く公表し、その成果を社会に還元した。		事業のPR及び調査研究の成果は、県サンクチュアリセンターが展示施設だけではなく、伊豆沼・内沼の環境保全対策及び調査研究機関である事を広く県内外に浸透させつつある。		A	各種の自主事業は、広く周知しており、多くの参加を得ている。また、調査・研究成果は、学会や誌面を通じ広く公表され、その成果は、高い評価を得ている。
	安全対策	9月に築館消防署において、職員全員で心肺蘇生の講習会を行った。また、消防法で定められている防火管理者等の有資格者を配置して、職員を対象とした訓練を実施するなど、火災予防について万全な管理に努めた。		消防設備等の点検において不具合等があった場合すぐに修繕を行っている。常に危機的意識を持ち、大きな災害に備えている。		A	消防設備の点検等の安全管理について適正に行われている。また、緊急時の連絡体制も整っている。

主な視点	項 目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価	
その他	個人情報の保護	1. 情報公開については、県の情報公開条例は勿論のこと、財団情報公開規程により、適切に対応することになっている。 2. 個人情報保護については、県の個人情報保護条例を遵守し、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」や「自然体験講座」、その他センターで得られた個人情報は、個人の権利利益の侵害の防止を図るため、慎重かつ適正に取り扱った。	令和6年度の情報公開の要請はなし。		実施事業で得られた個人情報は、適正に取り扱われている。	
	自主事業の実施	別記2のとおり	自主事業は、調査・研究の最新の成果を反映させていることから、参加者から好評を得ており、リピーターが多く参加している		伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストは、34回と回を重ね、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさと、自然保護の重要性を広く伝えてきている。また、様々な自然体験講座を開催し、自然保護思想の普及に努めている。	
	その他の取組	絵画展の開催、民間企業が沼周辺で行うボランティア活動に協力を行い、自然保護思想の普及活動にも力を入れた。また、学校や各種団体から依頼された講師派遣・自然観察会や出前講座などの実施に積極的に対応した。	地域に密着した事業を展開するため、受託事業以外の取り組みも、重要視される。近年、環境への関心が高まってきており、小中学校・企業等からも伊豆沼・内沼出前講座の依頼があり、環境をテーマとした講話を行っている。今後も地元との連携を密にし、事業を推進したい。		学校・団体・民間企業など様々な団体と連携した事業が積極的に進められており、重要な役割を担っている。	
総 合 評 価			サンクチュアリセンターは展示施設の他、調査・研究及び沼の保全活動の拠点として、適切な管理に努めている。伊豆沼・内沼の環境保全への取組は、環境問題への意識の高まりもあり、多くの県民から注目され、高い評価を得ている。		県の環境保全対策の代表的な実践地として、沼の生態系保全等に関する研究成果を広く社会に還元している。また、環境教育施設としての役割も十分果たしている。	

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評 価	評 価 の 考 え 方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評 価	評 価 の 考 え 方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項 目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	入館者が2,194人増で前年度の106%だったことは、自然環境の保全に対する県民の意識の高まりが感じられる。 令和7年度は、エネルギー削減対策として、全館照明のオールLED化工事が予定されており、早期工事完了に向け自然保護課と協議を行い最大限の支援・協力を行う。	建物設備の老朽化が目立ってきている中で、急がれるものから順次、修繕して行く。

別記1 【③運営業務(ソフト事業等)の実施】

研 究 業 績

○原著論文(査読付学術雑誌)

第一著者

1. 嶋田哲郎・白鳥 晃. 2024. 伊豆沼・内沼におけるシマエナガの詳細な越冬記録. 伊豆沼・内沼研究報告 18: 87-92.
2. 藤本泰文・鈴木勝利・相馬理央・内野透・中村匡聡. 2024. ヤハズヌマガイ *Buldotskia shadini* (イシガイ科) の東北地方における初確認. 水生動物, 2024, AA2024-6.

共著論文

1. 高橋佑亮・神山和夫・牛山克己・鈴木 透・嶋田哲郎. 2024. ドローンの接近に対するガンカモ類等の水鳥の反応. 日本鳥学会誌 73: 3-14.
2. Liu, W., Zhang, J., Shimada, T., Liu, Y., Xie, Y., Batbayar, N., Higuchi, H., Damba, I., Cao, L., Fox, A.D. 2024. Life in the fast and slow lanes: contrasting timing of annual cycle events in high- and mid-latitude breeding Whooper Swans (*Cygnus cygnus*). Ibis 166: 1157-1171.
3. Yasuno, N., Fujimoto, Y. & Kikuchi, E. Resource partitioning among endangered and non-native bitterling fishes in a small pond: insights from stable isotope and gut content analyses. Environ Biol Fish 2024.
4. Mori, D., Hayami, H., Fujimoto, Y., Goto, I. 2024. 3D-Plotting Algorithm for Insects using YOLOv5. arXiv preprint arXiv:2401.17714.
5. Zhao, F., Mizuno, K., Shigeru Tabeta, Hayami, H., Fujimoto, Y., Shimada, T. 2024. Survey of freshwater mussels using high-resolution acoustic imaging sonar and deep learning-based object detection in the Lake Izunuma, Japan. Aquatic Conservation, 34, e4040

○学会発表・シンポジウム等

1. 嶋田哲郎. 2023. 鳥類の渡り追跡公開と市民科学. 日本鳥学会2024年度大会(自由集会), 東京.

○委員会委員・非常勤講師など(主なもの)

(嶋田研究室長)

1. 希少野生動植物保存推進員(環境省)
 2. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業(ガンカモ類調査)検討委員(環境省)
 3. 宮城県生物多様性地域戦略検討委員(宮城県)
 4. 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員(宮城県)
 5. 栗原市環境審議会副会長(栗原市)
 6. 栗原市栗駒山麓ジオパーク部会長合同会議会長、保護・保全部会長(栗原市)
 7. 日本鳥学会副会長、代議員(日本鳥学会)
- (藤本上席主任研究員)
1. 希少野生動植物保存推進員(環境省)
 2. 宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員(宮城県)
 3. 宮城県自然環境保全審議会専門委員(宮城県)
 4. 遠野市山口集落伝統文化的景観保存調査委員(遠野市)
 5. 旧品井沼ため池群自然再生推進委員(環境省)
 6. 日本魚類学会自然保護委員(日本魚類学会)
 7. 流域環境保全ネットワーク副理事
 8. 宮城大学非常勤講師

別記2【④自主事業の実施】

① 自然体験講座の開催

自然保護思想の普及啓発活動の一環として、季節ごとのテーマを設定し、10回開催した。

◇令和6年度伊豆沼・内沼自然体験講座

回数	テーマ	開催日	参加者数
第1回	水辺の生き物採集と観察会	6月30日	17名
第2回	水辺の生き物採集と観察会	7月13日	11名
第3回	昆虫採集と標本作り	7月28日	23名
第4回	伊豆沼漁師体験	9月1日	台風のため中止
第5回	伊豆沼漁師体験	9月14日	12名
第6回	伊豆沼漁師体験	9月29日	27名
第7回	ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー	11月9日	17名
第8回	ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー	11月24日	25名
第9回	ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー	12月15日	29名
第10回	ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー	1月11日	24名
合 計			185名

※ 予算内訳 収入 財団 計 38万円
支出 保険料、委託費 計 38万円
(経費が少ない理由は、財団職員が講師を行っているため。)

② 第34回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの開催

栗原・登米両市との共催事業となっており、写真展開催により伊豆沼・内沼の重要性和環境保全の大切さをアピールした。また、2月、3月に県サンクチュアリセンターで全作品の展示を行った。(出品者69名、内入選者20名)

＜第33回写真展巡回展示箇所(入選作品のみ)＞

登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	令和6年	5月	2日～	5月30日
登米市役所1階ロビー	令和6年	6月	3日～	6月27日
栗原市役所1階ロビー	令和6年	7月	1日～	7月30日
JRくりこま高原駅オアシスセンター	令和6年	8月	1日～	8月30日
宮城県庁1階ロビー	令和7年	1月	10日～	1月23日

※ 予算内訳 収入 栗原市40万 登米市30万 財団40万 計 110万円
支出 旅費、通信、消耗品、印刷費、諸謝金(賞金等) 計 110万円

③ 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンの実施

美しい湖沼環境を保全するため、クリーンキャンペーン実行委員会と登米・栗原両市の共催により、第63回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを実施した。

第63回 実施日: 3月20日 参加者数: 608名 ゴミの量: 780kg

＜クリーンキャンペーン実行委員会＞

伊豆沼・内沼自然保護協会、伊豆沼漁業協同組合、内沼観光物産協議会、
迫川上流土地改良区、伊豆沼沿岸土地改良区、宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

※ 予算内訳 収入 財団 計 5万円
支出 保険料 印刷費 計 5万円

④ バス・バスターズの活動(ブラックバス駆除ボランティア)

伊豆沼・内沼では、オオクチバスの影響によって沼から姿を消してしまった希少魚ゼニタナゴの復元を目指す「ゼニタナゴ復元プロジェクト」の一環として、ボランティアバス・バスターズの協力を得て、オオクチバスの駆除活動を2004年から行っている。

駆除作業: 5月下旬～6月下旬 作業回数: 6回 参加延べ人数: 136名

⑤ 調査研究・普及啓発事業

伊豆沼・内沼の自然環境の保全管理のため、東京大学などの各種研究機関やシナイモツゴ郷の会をはじめ、各種団体との連携を密にし、調査研究並びに保全活動を行った。また、伊豆沼・内沼研究報告18巻に11本の論文を掲載したほか、センターニュースやホームページなどを活用し情報の発信に努めた。入館者に対しては、展示品を活用した解説に努めるとともに、出前講座をはじめ学校・各種団体等からの講演・講話要請等についても積極的に受入れし、対応した。

1 調査・検討会への参加状況

年	月	日	団 体 名
令和6年	4月	13日	環境省打合せ
	4月	26日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門部会
	5月	15日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門部会代表者合同会議
	5月	15日	栗駒山麓ジオパーク管理運営計画策定委員会
	5月	15日	青森県平内町打合せ
	5月	16日	宮城県北部土木事務所打合せ
	5月	23日	自然再生協議会 事務局会議
	5月	30日	宮城県自然保護課打合せ
	5月	30日	東京大学（海津准教授）ヒシ刈りロボット（～6月2日）
	5月	31日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会総会
	6月	7日	ジオパーク学術研究等奨励事業研究助成審査会
	6月	27日	山形大学（横山教授）調査
	7月	3日	宮城県自然保護課打合せ（WEB）
	7月	4日	東京大学（海津准教授）ヒシ刈りロボット（～7月6日）
	7月	5日	国土舘大学打合せ
	7月	11日	石巻専修大学打合せ
	7月	18日	宮城県東部土木事務所打合せ
	8月	19日	環境省打合せ
	8月	24日	（株）エイト日本技術開発打合せ
	8月	30日	伊豆沼・内沼ワイズユース情報交換会
	8月	31日	東京大学（水野准教授）調査
	8月	2日	世界谷地湿原保全作業
	8月	6日	東北地方農政局打合せ
	8月	7日	自然再生協議会学識者意見交換会
	8月	8日	宮城県希少野生動植物調査会
	8月	20日	宮城県自然保護課打合せ
	8月	22日	第1回栗原市環境審議会
	8月	23日	福島県視察
	8月	27日	東京大学（水野准教授）調査
	8月	27日	山形大学（横山教授）調査
	8月	28日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会専門部会
	8月	30日	宮城県自然保護課打合せ
	8月	31日	豊田合成東日本(株)打合せ

令和7年	9月 9日	千葉県希少生物及び外来生物リスト作成検討会
	9月11日	東京大学（学生）調査
	9月11日	生物多様性地域戦略推進会議
	9月12日	宮城県北部地方振興事務所農業農村整備部打合せ
	9月12日	オオクチバス防除指針改定検討会
	10月 3日	山形大学（横山教授）調査（～4日）
	10月16日	北部地方振興事務所打合せ
	10月22日	東北大学（中嶋教授）打合せ
	10月24日	栗駒山麓ジオパーク第3回保護・保全部会
	10月31日	宮城県自然保護課打合せ
	10月31日	栗原市農村整備課打合せ
	11月 6日	自然環境研究センター（ヒアリング）
	11月19日	宮城大学学生ショッカーボート調査
	11月27日	大崎市ラムサール条約湿地保全活用委員会
	11月27日	北里大学ゼニタナゴ視察
	12月 3日	酪農学園大学（小川准教授）調査（～6日）
	12月 4日	宮城県自然保護課打合せ
	12月11日	伊豆沼・内沼ワイズユース意見交換会
	12月11日	仙台第三高等学校打合せ（WEB）
	12月11日	宮城大学打合せ
	12月14日	筑波衛生研究所
	12月18日	宮城県生物多様性地域戦略推進会議
	12月19日	登米土木事務所打合せ
	1月10日	沈水植物部会
	1月11日	オオクチバス防除関係打合せ
	1月21日	宮城大学打合せ（WEB）
	1月22日	東北地方整備局北上川流域ネットワーク打合せ
	1月23日	自然再生協議会事務局会議
	1月24日	第2回栗原市環境審議会
	1月24日	自然再生協議会打合せ
	1月28日	モニタリング1000ガンカモ検討会（WEB）
	1月30日	東北農政局打合せ
	1月30日	オオクチバス防除指針検討会
	2月 1日	第20回伊豆沼・内沼自然再生協議会
	2月 4日	宮城県希少種会議（WEB）
	2月 6日	宮城県自然保護課打合せ
	2月10日	青森県平内町（ハクチョウ捕獲～13日）
	2月14日	東北地方ダム管理フォローアップ委員会
	2月15日	研究関係打合せ（東京）
	2月20日	栗駒山麓ジオパーク第4回保護・保全部会

3月 5日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ（WEB）
3月13日	栗駒山麓ジオパーク学術研究助成成果報告会
3月19日	宮城県生物多様性地域戦略推進会議
3月19日	水質勉強会
3月26日	栗駒山麓ジオパーク第5回保護・保全部会
3月26日	栗駒山麓ジオパーク専門部会合同会議

2 共同研究及び研究援助

- (1)環境省東北地方環境事務所（鳥インフルエンザ対策）
- (2)東北工業大学（ヒシによる水質浄化に関する研究）
- (3)北里大学（ゼニタナゴに関する共同研究）
- (4)宮城大学（生物の画像分析に関する研究）
- (5)わいるどらいふ秋田（オオハクチョウの捕獲・追跡調査）
- (6)シナイモツゴ郷の会（ゼニタナゴの保全に関する研究）

3 出前講座の開催状況

開催日	団体名	テーマ	参加者数
6月18日	コーユーレンティア株式会社 (仙台市)	沼の環境保全問題と自然再生の 取り組みについて	15名
7月16日	栗原市若柳小学校	伊豆沼の自然について	81名
10月 1日	平筒沼 水・いきもの保全隊	沼の生き物たち	40名

4 企業による環境保全活動（社会貢献活動）

- (1)トヨタ自動車東日本株式会社

9月 7日	20名
10月12日	20名
11月 2日	12名
- (2)豊田合成東日本株式会社

12月 1日	68名
--------	-----
- (3)株式会社伊藤園

10月26日	50名
--------	-----

※ 予算内訳 収入 財団
支出

計 300万円
計 276万円

☆ 自主事業収支

（単位：千円）

自主事業区分	収入	支出	収支
自然体験講座	380	380	0
フォトコンテスト	1,100	1,100	0
クリーンキャンペーン	50	50	0
調査研究・普及啓発	3,000	2,760	240
合 計	4,530	4,290	240